

# 「第34回日本農業大賞」受賞 ポイントは“独自販売ルート確立”

～ 有限会社三浦園芸 ～



特大のトロフィーは  
受賞の証。「島村農  
林水産大臣との名詞  
交換は緊張しました。」

させるためには独自の“ウリ”が必要で、当社の場合“ハイドロカルチャー”がその切り口です。土を使わず植物を育てる水耕栽培で、室内で植物を楽しむにはぴったりです。その他、土の代わりに“杉のおがくず”・“炭”を使った製品もあり、現在も常に新商品の開発を行っています。

経営や技術の改革・発展に取り組んだ個人・団体が対象となる「日本農業大賞」(主催：日本放送協会、全国農業協同組合中央会 等)。この度、全国104件の応募の中から有限会社三浦園芸が大賞に選ばれました(\*全国で3社が大賞を受賞)

「通常、製品が生産者から消費者の手元に届くまでは、“市場”や“問屋”等数段階を経るのが普通です。ただ、時として値崩れを起こしてしまうのが問題です。そこで当社では、過剰な価格競争を避けるべく市場外流通を行っています。直接販売店に卸すのですが、商品価値を直接反映

代表取締役：三浦基彰 氏  
額田郡額田町牧平字大門45  
(0564) 82 - 2651

<http://www.miuraengei.com/>

[http://www.miuraengei.com/i/\(iモード用\)](http://www.miuraengei.com/i/(iモード用))

また、製品以外にもサービス部分の充実も図っています。一部商品にQRコードをつけ携帯で読み取ることで、その場で商品情報が分かるようにしています。また、iモード用HPを作成したところ問い合わせが格段に増え、お客様との新しいコミュニケーションチャネルになりつつあると感じています。

新しい試みとして、化粧品会社とコラボレーションの可能性を探っています。化粧品販売店舗にレイアウトされた当社の商品を購入できる、そんな新しい販売形態を確立すべく現在試験店舗を運営中です。

今回の受賞は大変名誉なことで、誇りに思っています。今後も新商品の開発のみならず、上手に顧客情報をリサーチし、気軽に観葉植物を楽しんでいただけるよう情報提供にも力を入れて行きたいと思えます。」

ハイドロカルチャー

同社が日本で最初にビジネスとして成功させ、現在同分野のトップシェア企業です。



ハイドロカルチャー  
に使用される“ハイドロコン”。粘土を高温で焼成したもので、保水性・通気性に富む。